

## 秋川で育つ



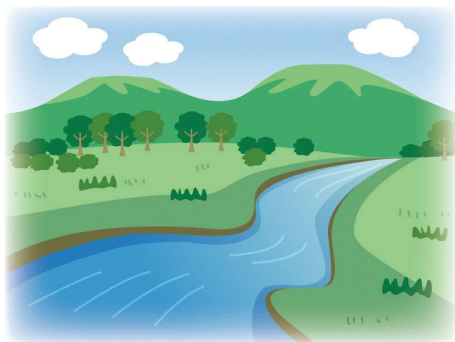
ぜんそく  
喘息気味の子どもたちと、ご当地に横浜より引っ越してきました。

夏休みになり、毎朝自分で弁当こしうを拵え、夕方まで秋川で泳いだり、岩から飛び込んだりして遊んでいました。

また、ある日息子を懲らしめるために、夜、玄関から表に出しました。ところが反省するどころか「ママ!ホタルを捕まえたよ!」と言って、喜んでいるではありませんか。徐々に喘息の心配もなくなり、卒業まで半袖・短パンで過ごせる様な体になりました。

「松田さんはあんな格好で通学させるなんて、寒い日もあるのに可哀かわいそう」なんて言われましたが、いい自然環境の中では、健康で元気な子が育つのだと思いました。

あれから半世紀、三日にあげず医者通いをした弱かった息子も、輝く太陽の下、きれいな水の秋川で育てられ、海外でのいろいろな環境の中の生活でも、病気せず元気で会社勤めを終わる事ができました。幼いころの川遊びが体力作りの原点で、自然からの賜物と思っています。



文： まつだ よしごろう  
松田 嘉五郎さん(増戸地区)

### 表紙のことば

古山さんご一家の自宅は、趣のある築80年の総檜造りしので、2階建てはとても珍しかったそうです。当時は自宅の敷地で旅館の浴衣を専門に織る、織物工場を営んでおり、ご主人の喜一郎さんは大学卒業後織物工場を継いだそうです。

喜一郎さんは普段、20本近くある庭木の手入れや畑仕事をしていた表紙に写っている庭木も喜一郎さんが手入れしています。

小さい頃は体が弱かったですが、現在は病気もなく元気に過ごしているそうです。健康の秘訣を聞くと「夜10時に寝て、朝7時に起きる規則正しい生活を送ること」と話してくれました。

君代さんは、昔平井村の郵便局長をしていた父親が、後に織物業を始めたことがきっかけで喜一郎さんと出会いました。本が大好きで、以前は寝る間を惜しんで文学書を読んでいた。詩を作るのも好きで、60歳の時に親戚の勧めで詩集を作ったそうです。

夫婦仲がよい秘訣を君代さんに聞いたところ「主人は心が広いので、私のよき理解者であり、お互いに信頼しあっていることでしょうか」と話してくれました。



古山さんご一家(日の出地区)

左から▶

こやま きいちろう  
(本人)古山 喜一郎さん

きみよ  
(妻)君代さん